

四〇九

【天地】
てんち *朱筆

天地てんち

神は爲成しん いせいに活かつす、

物は氣物ぶつ きぶつに立りつす、

爲成いせいは則ちすなわ天神てんしんなり、

氣物きぶつは則ちすなわ天地てんちなり、

天神てんしんは則ちすなわ鬱滃うつぼつの活かつ、以てもつ其その天てんを窺うかがう、

天地てんちは則ちすなわ混淪こんりんの立りつ、以てもつ其その地ちを觀みる、

性せいは一いちを剖さく、

物ぶつは精麤せいそを開ひらく、

一いちは分合ぶんごう混糝こんさんを爲なす、

精麤せいそは没露ぼつろ隱見いんけんを成せいす、是こゝに於おいてか。

氣きは能よく精没せいぼつす、

物ぶつは能よく麤露そろす、

精没せいぼつは則ちすなわ神しんの體たいなり、

麤露そろは則ちすなわ物ぶつの體たいなり、

麤露そろすと雖いえども亦また没露ぼつろす、

精没せいぼつすと雖いえども亦また隱見いんけんす、

見みる者ものは没ぼつを以もつて其その地ちと爲なす、

四二六*

四二五*

四二四

四二三

四二二

四二一

四二〇

四一九

四一八*

四一七

四一六

四一五

四一四

四一三

四一二

四一一

四一〇

- 四二七*
- 四二八*
- 四二九*
- 四二九 1 (復元)
- 四三〇―三二
- 四三二
- 四三三
- 四三四
- 四三五
- 四三六
- 四三七*
- 四三八
- 四三九*
- 四四〇
- 四四一
- 四四二
- 四四三
- 四四四

露する者は隠を以て其の天と爲す、

神にして見る、

物にして露す、

露は其の没に宅し、見は其の隠に路す、

神は本と氣にして。而して氣なる者は天なり、

物なる者は地なり、

神と物は共に物にして。而して

天は其の宅路を爲せば。則ち天は亦た地にして。

而して地は其の開く所の戸、

閉る所の室を并せ食めば、則ち終に萬有を食んで盡くす。

盡る處に就きて強いて漠然無朕たる者を勾す。其の勾す可からざる者を勾して。

以て之を觀れば。舊に仍りて氣にして天なり。仍りて天境に入る。

結を解き聚を散ずれば。則ち藐焉の中。氣を觀て物を觀ず。

以て天の地を食み盡くすを觀る。是に於て彼と此は各おの隻を爲す。

隻は互いに隻を吐す、

隻は互いに隻を食す、

遂に天の混成を觀、
地の混成を觀、以て一に混成するを觀る。

(PB 319)